

第69回全国植樹祭関連行事

第47回全国林業後継者大会

基本計画（抜粋版）

第47回全国林業後継者大会福島県実行委員会

第47回全国林業後継者大会 基本計画

I はじめに

1 全国林業後継者大会

昭和45年5月18日、第21回全国植樹祭の前日に国立磐梯青少年交流の家（旧国立磐梯青年の家）を会場に全国で初めて「全国林業後継者のつどい」を本県で開催した。

このつどいは、全国の林業後継者の団結と親睦を図り、将来の林業を担う若人の林業に生きる決意を新たにし、新しい時代に対応した林業の発展を目指すことを目的に開催された。

全国から林業後継者200名が参加し、全国6ブロックの代表が、後継者としての体験や将来への抱負を発表し、その後、交流会を行い、翌日は、参加者が持参した「県の木」を国立磐梯青少年交流の家の敷地内に記念植樹した。

これを契機に、全国植樹祭関連行事として各県で開催され、平成30年に再び本県で第47回大会を開催することとなる。

2 大会の基本構成

12:00～ 13:30～	○展示と物販 ・関係者による展示と特産品等の物販
	○全国林業後継者大会 ・オープニング、開会式典 トークセッション等、閉会式典
17:30～	○交歓の夕べ ・主催者挨拶、激励の言葉、歓迎の言葉、乾杯 アトラクション、万歳

II 開催方針

1 開催目的

この大会は、第69回全国植樹祭関連行事として、全国の林業後継者が一堂に会し、森林づくりへの先人の考えや担い手としての日ごろの取組について意見を交わし、豊かな森林を次世代に継承する思いを全国に発信するために開催する。

また、東日本大震災からの森林・林業の復興・創生への支援に感謝する気持ちと力強く歩み続ける福島県の姿を国内外に発信する。

2 基本理念

昭和45年に猪苗代町で開催された「全国後継者のつどい」が「全国林業後継者大会」の先駆けとなり、再び本大会が本県で開催される。

過去から現在へとつながった林業後継者の思いが、さらに未来につながるよう基本理念は次のとおりとする。

- ・豊かな森林を未来につなげる。
- ・森林を守る心を後世につなげる。
- ・森林を活かす技術を次世代につなげる。

3 テーマ

未来へと つなげる心 ^{もり} 森林づくり

4 開催時期

平成30年春期（全国植樹祭前日）

5 開催会場

（1）全国林業後継者大会

いわき駅周辺の450名以上が収容可能な施設

（2）交歓の夕べ

全国林業後継者大会会場からの移動が容易で200名以上が収容可能な施設

6 主催

福島県林研グループ連絡協議会、全国林業研究グループ連絡協議会、いわき市、福島県

7 後援

林野庁、一般社団法人全国林業改良普及協会、公益社団法人大日本山林会

8 大会運営

第47回全国林業後継者大会福島県実行委員会

（構成団体）

福島県林研グループ連絡協議会、福島県指導林家連絡協議会、公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会、福島県森林組合連合会、福島県木材協同組合連合会、福島県農林種苗農業協同組合、福島県きのこ振興協議会、福島県林業経営者協会、福島県木材青壮年協会、福島県素材生産協同組合、いわき市森林組合、磐城林業協同組合、NPO法人いわきの森に親しむ会、いわき市、福島県

9 開催規模

- (1) 全国林業後継者大会 約450名
- (2) 交歓の夕べ 約200名

Ⅲ 全国林業後継者大会概要

1 演出

大会の構成は、オープニング、開会式典、トークセッション等、閉会式典で構成する。

また、大会開催中、会場内外で関係者による展示と特産品等の物販を行う。

2 運営

大会は、次の事項を基本とし、参加者に福島県らしさを感じていただける運営を行う。

- (1) 参加者の安全と快適に配慮するとともに、林業研究グループ等の団体や地元市町村の協力を得ながら、福島県らしさを活かしたおもてなしの心を持って行う。
- (2) 司会者、トークセッション等の出演者は、地元団体をはじめとする県内関係団体の積極的な協力と参加を得て実施する。

Ⅳ 交歓の夕べ概要

1 演出

交歓の夕べは、主催者挨拶、激励の言葉、歓迎の言葉、乾杯、アトラクション、万歳で構成する。

全国の林業後継者の親睦と意見交換が活発に行われる内容とし、全国からの支援への感謝の気持ちを表すものとする。

2 運営

交歓の夕べは、次の事項を基本とし、参加者に福島県らしさを感じていただける運営を行う。

- (1) 参加者の安全と快適に配慮するとともに、林業研究グループ等の団体や地元市町村の協力を得ながら、福島県らしさを活かしたおもてなしの心を持って行う。
- (2) 司会者、アトラクションの出演者は、地元団体をはじめとする県内関係団体の積極的な協力と参加を得て実施する。